令和８年１１月２４日
教　育　指　導　課

今後の区立小・中学生国際理解教育における海外体験活動の拡充について
～台湾・高雄市との教育交流の推進～

１　国際理解教育における海外での体験活動の充実

世田谷区教育振興基本計画に基づく国際理解教育の推進及び海外体験活動の充実に向けて、異文化理解を深め、多様な価値観を尊重しながら世界の人々と共に生きていく資質・能力を育むため、海外派遣先を拡充し、それぞれの派遣先の特色を活かしたテーマ性のある学習を展開する。このたび、区の中学生海外派遣事業において初となるアジア地域の派遣先として、区との文化交流もある台湾・高雄市を位置付け、歴史や文化、防災等をテーマとした探究的な学習機会の創出に向けて、教育交流の実施可能性や学習内容、安全管理体制等を確認する実地踏査を行った。

２　実地踏査の概要

項目	内容
実施期間	令和８年１１月５日～９日
訪問地域	台湾（台北市、台中市、高雄市）
踏査者	教育委員会事務局職員３名、学校長１名、教員１名
訪問先	高雄市政府教育局、921地震教育園區、高雄市立歴史博物館、龍山寺、国立故宮博物院、国立中正紀念堂、台北１０１、忠烈祠、国立科学工芸博物館、自行車探索館、美麗島駅。 ※所在地については別紙参照
確認事項	（１）教育交流 現地中学校との教育交流の実施可能性、交流内容の適切性、学校の受入体制、生徒の活動環境。 （２）学習プログラム 現地訪問先での体験内容が、「世界有数の先端技術企業と防災まちづくり」をテーマとした探究的な学習内容の適切性及び中学生の理解度や学習効果を踏まえた学習プログラムの構築可能性。 （３）安全管理 現地の治安状況、交通事情や移動時及び訪問・宿泊施設における動線、衛星環境及び安全性。最寄りの医療機関や危機管理体制。

３　実地踏査の結果

テーマ：「世界有数の先端技術企業と防災まちづくり」

（１）教育交流

高雄市政府教育局との協議を踏まえ、学校交流の実施に向けた協力体制を構築できる見込みであることを確認した。また、同教育局から紹介を受けた高雄市翠屏小・中学校については、AIを活用した先進的な学習やバイリンガル教育等、日本に先行する教育活動を実践しており、生徒が多様な教育環境に触れる機会として有意義であることを確認した。単なる学校見学に留まらず、学校の特色や教育内容に関する事前学習を十分に行い、継続的な交流につながる教育プログラムを構築する。

なお、同校は台湾教育部より「防災教育優良・領航校」に認定されており、防災訓練等を通じて、高雄市の防災・まちづくりを肌で感じ、世田谷区との比較を行うことが可能である。

（２）学習プログラム

① 台湾派遣のテーマとして、「世界有数の先端技術企業と防災まちづくり」が有効であることを確認した。特に、震災遺構である921地震教育園區、高雄市立歴史博物館、国立故宮博物院、龍山寺、国立中世記念堂については、台湾の防災及び文化的背景、歴史、社会を学ぶことができ、海外派遣の目的との関連性が高いことを確認した。忠烈祠については、国立中正記念堂においても台湾の歴史や国家形成に関する学習が可能であり、学習内容が一部重複することから、限られた日程の中では優先度は高くないと考えられる。

② 企業訪問について、国立科学工芸博物館は、教育的価値は認められるものの、派遣事業の主たる目的である歴史・文化理解との関連性は比較的低いことから、行程上の余裕等を踏まえ補完的な見学先として位置づけることとする。また、「自行車探索館」に訪問したが、自転車産業やものづくりについて学ぶことが可能である。しかし、派遣テーマとの結び付きが明確でなければ学習効果は限定的であり、優先度は高くないと考えられる。一方、今回は予約が取れず見学することができなかったものの、台湾の先端産業を学ぶという観点では、台湾のシリコンバレーとも称される新竹市に位置する新竹サイエンスパークやTSMC関連施設の方が、台湾が世界的な競争力を有する半導体産業を直接学ぶことができるため、テーマとの関連性が高いと考えられる。また、台湾日本交流協会や現地ガイドからも今回の派遣テーマとの関連性が高い訪問先として推奨されているほか、日本の中学校・高等学校の視察先においても実績があることから、今後の訪問先として有力な候補であると考えられる。



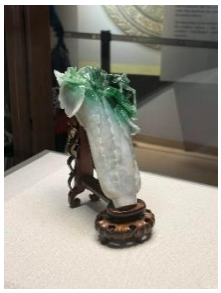
９２１地震教育園區



高雄市立歴史博物館



龍山寺



台湾故宮博物院
翠玉白菜

（３）安全管理及び運営面について

訪問施設、移動手段及び宿泊環境等を確認した結果、中学生による団体派遣事業を実施する上で大きな支障はなく、安全面及び運営面において実施可能であることを確認した。一方で、市街地ではバイクの交通量が多く、わき道からの飛び出しも見受けられるため、交通安全指導の徹底が必要である。また、トイレについては和式便器やトイレットペーパーを流せない施設も多く、日本との生活習慣の違いに配慮する必要がある。

４ 台湾派遣の方向性

（１）派遣の目的

震災や水害が多いなど、日本と共通性のある地域において、台湾の歴史、文化及びまちづくりについて学ぶとともに、現地の学校との交流を通じて国際理解を深め、多様な価値観に触れることで、自ら考え行動できる力を育成する。また、中国語・英語と様々な言語を活用したコミュニケーションや異文化体験を通じて、世界という視野で学び、自らの将来や地域社会について主体的に考えるきっかけとする。

（２）主な学習テーマ

日本と台湾の関係
台湾の歴史・文化
AI教育及び先進的な教育実践
防災・減災
世界有数の先端技術

（３）交流候補校

高雄市翠屏小・中学校を交流候補校として、今後、高雄市政府教育局と具体的な調整を進める。

（４）派遣人数

区立中学校生徒 約１６名（予定）

（５）派遣期間

６泊７日程度（予定）

（６）概算経費

１１，７７０，０００円

（７）参加者の公募

区では、令和９年度以降、必要な予算の措置、関連する諸課題の調整を進めており、その中の準備段階の一環として、この度、生徒を募集するもので、本事業に係る令和９年度予算の配当を条件とする。

５ 今後のスケジュール（予定）

令和８年１１月	文教常任委員会報告（今後の区立小・中学生国際理解教育における海外体験活動の拡充について）
令和８年１２月	令和９年度統一公募による参加生徒募集
令和８年１２月	派遣生徒の募集開始

令和９年１月～　　派遣生徒の選考（書類及び面接）
令和９年４月　　派遣生徒の決定
令和９年６月～　　事前学習会の実施（４～５回程度）
令和９年１１月　　現地派遣（６泊７日程度）
令和９年１２月～　事後学習会（２～３回程度）
令和１０年３月　　派遣報告会

別紙

・史烈堂
・台湾故宮博物館
・台北１０１
・龍山寺
・中世記念堂

・９２１地震教育園區
・自行車探索館

・高雄市政府教育局
・高雄市立歴史博物館
・国立科学工芸博物館
・美麗島駅
・高雄市翠屏中・小学校

